

## 新聞附録の地図

立岡裕士

(キーワード：報道地図，新聞附録，近代日本)

### 1 はじめに

明治中期まで新聞の発行部数は、都市部のものでも数万部程度であった（岡本，1961，pp.653～677）。しかし明治後半から急増するものが現れ、特に大正期から昭和戦前期にかけて、一部の新聞は数十万～百万超となった<sup>1)</sup>。発行部数の増加は販売競争の激化と表裏の関係にあり、新聞各社は専売店網の確立など流通体制の整備とともに、他紙との差別化を図る必要に迫られた。その手段の一つが附録の添付である<sup>2)</sup>。こうした流れのなかで、1870年代末から1960年代にかけて（特に20世紀前半）、新聞（および雑誌）にはしばしば地図が附録としてつけられた。小学校の国定教科書に地図帳があったとはいえ収録されている地図は小縮尺（日本の場合地方別）のものが中心で（田中，1996，pp.191～217）、地理その他の教科書の挿図も小さな単色・簡略な地図にすぎないことからすれば、大判・多色刷りの附録地図は個々の読者にとっても、また同じ地図が数十万世帯で閲覧されたという点で社会現象としても、大きな影響力をもったと思われる。しかし現在のところ、新聞附録の地図の実態を知るべき基礎的資料さえまだ整備されていない。そこで筆者は、発行された附録地図の目録を作成するとともに実物を収集することを試みている。本稿はその中間報告として、新聞附録地図の一般的な特徴を紹介する（地図目録を掲載することは紙幅の都合により別の機会に譲る）。

### 2 調査対象

新聞にかかわる地図は以下のように区別できる：

#### 1 新聞社自身が提供する地図

- 1-A 新聞本紙記事内の地図
- 1-B 新聞号外の地図
- 1-C 新聞附録の地図

#### 2 新聞社の外から与えられる地図（広告類）

このうち1-Cが本研究の対象である（販促の目的を担うものである以上、附録の地図は、一般的には相当の時間を用いて作製されるであろう。この点で緊急臨時に発行される号外紙掲載の地図とは区別されうが、予定されて発行される号外がある一方、事変に際して緊急に作られる附録地図もあるため、1-Cと1-Bとは区別しがたい場合もある。さらに新聞本紙内で特集を組み紙面大など大判の地図を添付する場合もある）。また「地図」としてどの範囲まで考えるかも一つの問題となりうる。双六のなかには、単に地名だけを並べたものがある一方、大阪毎日の「鉄道競争すごろく」（ニュースパーク，2003，p.63）のように、明確な地図的ベースの上に作られたものもあるからである。本調査では少なくとも後者のようなものも「附録地図」に含める<sup>3)</sup>。また、新聞社が刊行した地図と附録地図との区別も困難な場合がある。なぜなら、附録であることが明記されながら定価が記入された地図があるからである。当初からもしくは刊行後の好評を受けて一般販売もしたのであろう。そうしたなかには一般販売の際に附録という注記を削ってしまったものがあるかもしれず、その場合には残された地図だけから附録であったことを知ることはできない。このため本調査においては新聞社刊行の地図も一部調査しているが、本稿では附録であることが明記されているもののみを取り上げた。

当初から全ての新聞を対象とすることは困難なため、当面は、『朝日』・『毎日』・『報知』・『読売』などの大新聞の附録を中心に調べた。各紙の概要は以下の通りである<sup>4)</sup>。

・朝日系：「大阪朝日新聞」は1879年、「東京朝日新聞」は1888年、にそれぞれ創刊される。1940年に紙名を「朝

日新聞」に統一する。

- ・毎日系：「大阪毎日新聞」は大阪日報として1876年に創刊され、1888年に「大阪毎日新聞」と改題される。「東京日日新聞」（1872年創刊）は1911年に大毎に買収された。「毎日電報」は「電報新聞」として1903年に創刊され、1906年に大毎に買収されて改題される。東日が大毎に買収されたことにより、東日に吸収される。大毎・東日は1943年に紙名を「毎日新聞」に統一する。
- ・報知：「報知新聞」は1872年に「郵便報知新聞」として創刊され、1894年に「報知新聞」と改題された。1942年に読売新聞に吸収される（戦後再び分立する）。
- ・読売：「読売新聞」は1874年に創刊され、報知を吸収したことで「読売報知新聞」と改題された（1946年に読売新聞に戻る）。

ただし、現時点では出版社側の記録がほとんど利用できないため、主として古書市場などに残存するものを調べ、さらに、日本新聞博物館が所蔵する附録地図の目録で補足するという方法をとった。したがって、消耗品としての新聞（附録）の残存状況に依存するという欠点は回避できない。

現時点で把握している附録地図は252点であり、そのうち101について現物を確認している（これらのなかには複数枚で1シリーズとなっているものもあるが、全て別に計算した）。新聞社ごとの点数は後掲の表1に示した。

### 3 附録地図の全体的特徴

#### (1) 刊行時期

新聞史においても画期となった対外戦争を基準として10年ごとに分けた時期別の刊行数を新聞社別に示す（表1）。

表1 時期別・新聞別の附録地図の点数

| 時 期 |       | I<br>～1893 | II<br>～1903 | III<br>～1913 | IV<br>～1923 | V<br>～1933 | VI<br>～1940 | VII<br>1949～ | 計   |
|-----|-------|------------|-------------|--------------|-------------|------------|-------------|--------------|-----|
| 朝日系 | 大阪朝日  |            |             |              | 5           | 7          | 5           |              | 17  |
|     | 東京朝日  |            |             | 2            | 1           | 1          | 2           |              | 6   |
| 毎日系 | 大阪毎日  | 4          | 2           | 10           | 14          | 53         | 13          |              | 96  |
|     | 東京日日  | 1          | 3           | 3            | 9           | 14         | 10          |              | 40  |
|     | 毎日電報  |            |             | 2            |             |            |             |              | 2   |
|     | 毎日    |            |             |              |             |            |             | 3            | 3   |
| 報 知 | 読 売   |            | 1           |              |             | 10         |             |              | 11  |
|     | そ の 他 |            | 11          | 12           | 15          | 17         | 13          | 3            | 71  |
| 計   |       | 5          | 17          | 29           | 45          | 102        | 48          | 6            | 252 |

第Ⅲ期以前に東日が刊行した7枚は厳密には「毎日系」新聞による刊行とは言えない（1911～1913年に東京日日が刊行した地図は確認されていない）

新聞社別には、毎日系が多く、特に大毎は96と他と懸隔している。同紙が地図添付を積極的に行ったということであろう。ただし、1923～1930年にかけて、東宮成婚記念として「日本交通分県地図」を配布したことも（刊行点数としてのみならず残存点数にも）寄与しているのではなかろうか<sup>5)</sup>。

附録地図が流行するのは20Cにはいつてから、特に大正・昭和戦前期である。基本的には、新聞自体の普及・競争激化と時期を同じくすると言えよう。しかし少なくとも朝日・毎日両系統の新聞に関しては、Ⅳ～Ⅵ期を通してあまり大きな変動は見られない（「日本交通分県地図」を刊行した第Ⅴ期の大毎を別にして）。

#### (2) 大きさ

紙型は模造紙（108×79cm）を基本としているものが多い（表2）。「その他」に分類したものなかで、模造紙1/4よりも小さいものは1点のみである。折本仕立てのものも多く、また模造紙1/2～1/4程度の方形のものも少なくない。また1点のみではあるが16ページ立ての地図帳もある（大朝「世界現勢解説地図」（1937年））。

表2 時期別・大きさ別の附録地図の点数

| 時 期         |          | I<br>~1893 | II<br>~1903 | III<br>~1913 | IV<br>~1923 | V<br>~1933 | VI<br>~1940 | VII<br>1949~ | 計   |
|-------------|----------|------------|-------------|--------------|-------------|------------|-------------|--------------|-----|
| 大<br>き<br>さ | 模 造 紙 大  |            |             | 8            | 14          | 17         | 11          | 1            | 51  |
|             | 模造紙1 / 2 |            | 2           | 8            | 16          | 64         | 12          | 1            | 103 |
|             | 模造紙1 / 4 |            | 9           | 6            | 12          | 6          | 14          | 1            | 48  |
|             | そ の 他    |            | 4           | 4            | 2           | 13         | 6           | 3            | 32  |
|             | 不 明      | 5          | 2           | 3            | 1           | 2          | 5           |              | 18  |
| 計           |          | 5          | 17          | 29           | 45          | 102        | 48          | 6            | 252 |

昭和初年までは全体として次第に大型のものが増加している。1930年代後半に小型のものが増加したのは、物資の窮乏に加えて日中戦争の戦域を示すものが増えたためであろう。

### (3) 色数

刊行時期の古いものはまだ実見する機会を得ていないものが多いため、現段階では地図の色数について確かなことを述べることはできない。確認したもののなかで、日清戦争に関係した4点はいずれも単色であるが、1900年の東日の「大日本帝国全図」はすでに3色刷である。

### (4) 刊行機会と記載対象

地図の記載内容・記載範囲はその地図がいかなる機会に発行されたかという点と密接に絡み、適切な分類が困難である。地図の発行機会は、

- A 新聞社の記念（〇〇号記念・新社屋建築、など）
- B 新年や夏季などの時候がらみ
- C 鉄道建設
- D 市町村合併
- E 戦争（開戦・講和）・革命
- F イベント（博覧会などが多いが、陸軍大演習に際して刊行されたものもある（神戸「特別大演習記念地図」（1919年）・北国「大演習区域交通全図」（1924年）・福岡日日「南九州詳密地図」（1935年））。
- G 自然災害など

が挙げられる。ただし、B（元旦を除く）は附録の刊行理由（名目）が明示されず、都市図なども何らかの記念であることを明記しているとは限らない。単なる販促のためにこれといった名目もなしで刊行されたことも少なくないのであろう。

これらのうち、D以下の場合に刊行される地図は機会＝作成意図が明瞭なため主題も比較的単純である。すなわちDの場合は新しい市域の、市街図が作られる（図1）。Eでは、戦前・戦後は関係諸国の位置関係を示すような一般図（特に戦後は新しい国境を示す）が作られる。戦争中は戦域の地図が作られる。ただし両次大戦の欧州戦線（図2）のように日本軍が直接関係していない場合はともかく、日本軍が関係している場合は軍事情勢は記載されないため、戦域の一般図であるにすぎない（図3）。Fではイベント会場の地図とそこへのアクセスを示す地図が作られる（図4）。Gは今回の調査では関東大震災の地図がそれに該当する。

表3 時期別・描写範囲別の附録地図の点数

| 時 期         | I<br>~1893 | II<br>~1903 | III<br>~1913 | IV<br>~1923 | V<br>~1933 | VI<br>~1940 | VII<br>1949~ | 計   |
|-------------|------------|-------------|--------------|-------------|------------|-------------|--------------|-----|
| 世 界 全 体     |            |             | 2            | 8           | 4          | 4           | 1            | 19  |
| 数 カ 国 ~ 大 陸 | 1          |             | 1            | 3           | 2          | 7           |              | 14  |
| 国           | 2          | 4           | 4            |             | 4          | 3           |              | 17  |
| 国 の 一 部     |            | 5           | 10           | 7           | 4          | 18          |              | 44  |
| 日 本 全 国     | 1          | 2           | 3            | 4           | 10         | 5           | 1            | 26  |
| 県 ~ 地 方     |            | 3           | 3            | 15          | 53         | 7           | 4            | 85  |
| 都 市         | 1          | 3           | 6            | 8           | 25         | 4           |              | 47  |
| 計           | 5          | 17          | 29           | 45          | 102        | 48          | 6            | 252 |

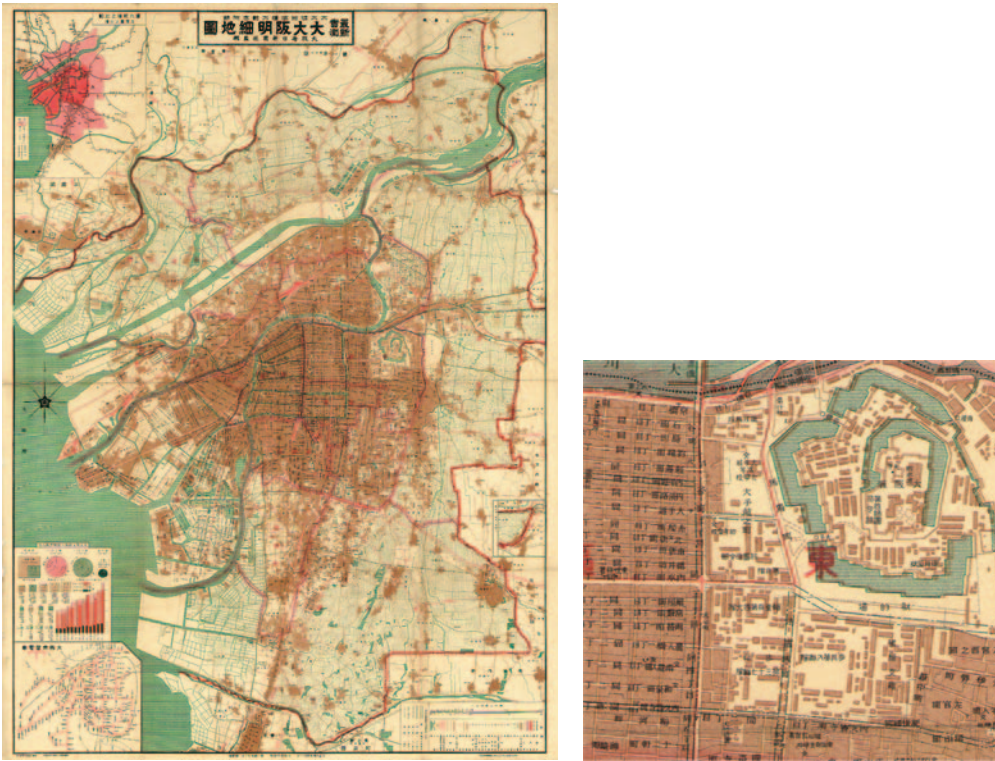


図1 大毎「大大阪地域拡大記念附録 最新実測大大阪明細地図」(1925.04.01)と部分



図2 大毎「列強大戦争地図」(1914.08.21)

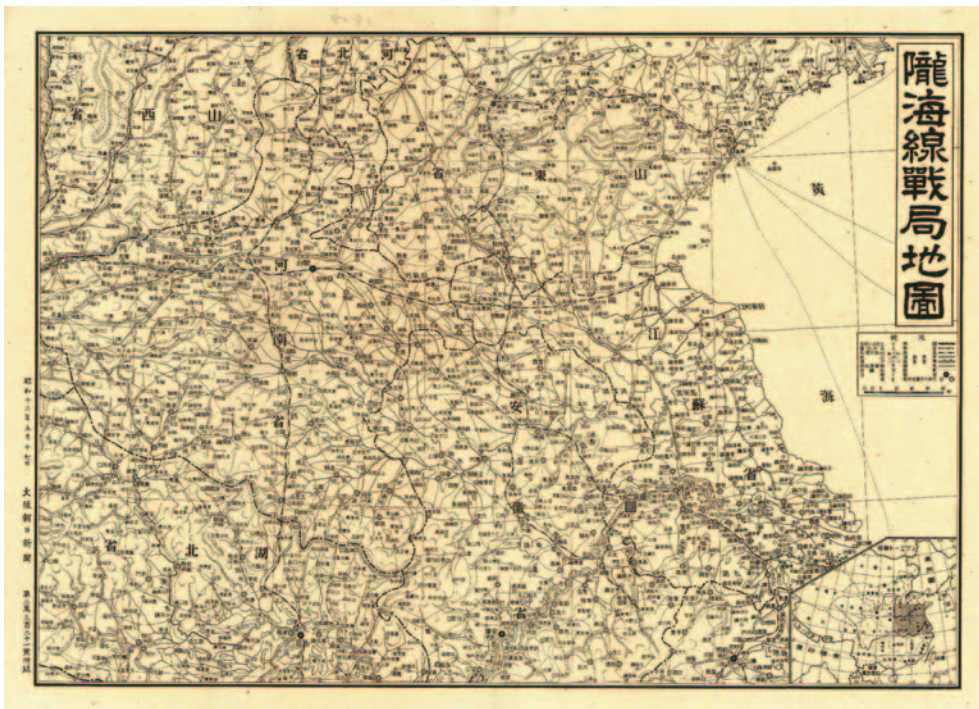
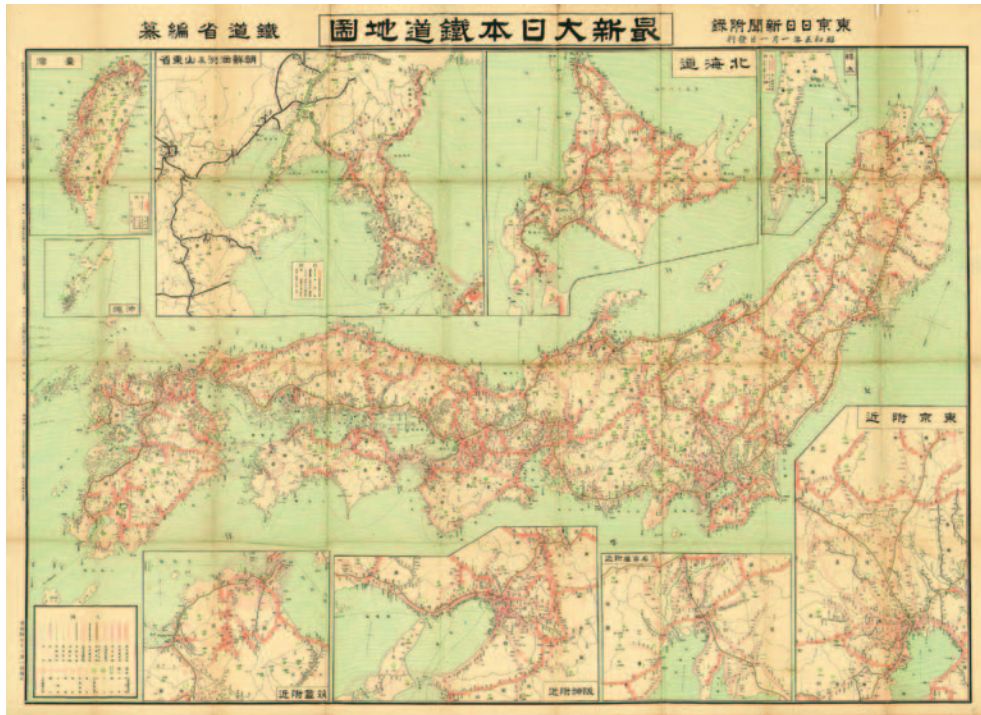


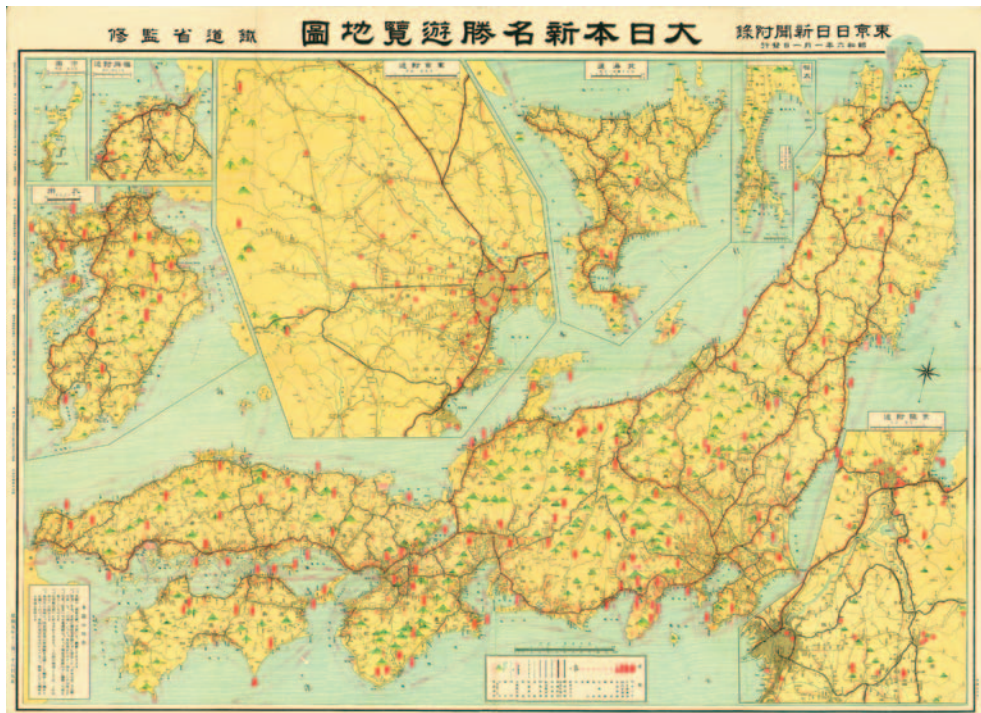
図3 大朝「隴海線戦局地図」(1938.05.17)



図4 万朝報「实用東京案内大地図 附明治神宮参拝及平和博覧会場図」(1922.03.21)



東日「最新大日本鉄道地図」(1930.01.01)



東日「大日本新名勝遊覧鉄道地図」(1931.01.01)

図5 鉄道が描かれた地図

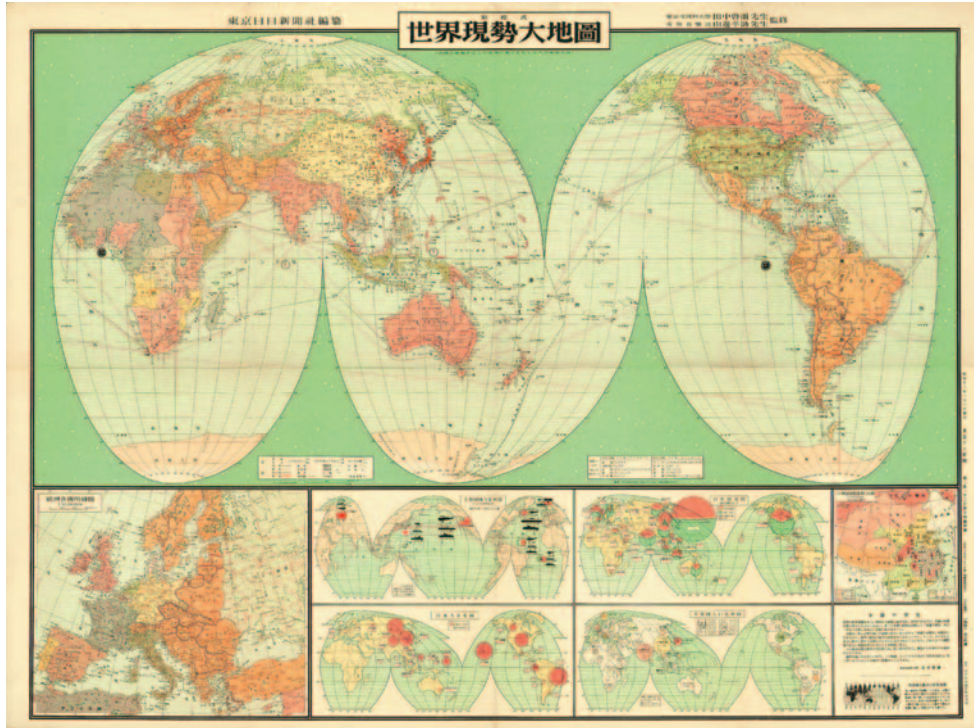


図6 東日「新様式 世界現勢大地圖」(1936.01.01)  
「各国の面積が正しい比例に現はされてある合理的の図」というキャプションが付けられている

これに対してA～Cに際しては刊行された地図ははるかに多様である。Cは新線の建設または全国の鉄道の発展（1万マイル記念など）を記念して刊行されるものであるが、大正期のもは鉄道路線のみならず、名所が記載されて観光地図と区別がつきがたい（のみならず、特に昭和期にはこうした鉄道記念とは無関係に、観光用に鉄道地図が刊行されている（図5））。AおよびBの元旦附録ではいわゆる一般図や観光地図、および時局に絡んだ解説を加えた行政図であることが多く、Bのうち夏季附録では観光地図が多い。

描画範囲を単純に分類することはできないが、世界全図・数カ国～大陸規模（「太平洋」なども含む）・一国・国（外国。多くは中国）の内部・日本全図・県～地方・都市（ないしそれ以下）の7種に分け<sup>6)</sup>て時期別に示した（表3）。第一次大戦以前には世界全図がほとんどない。他方で、1930年代後半に「数カ国～大陸」・「外国の一部」規模の地図が増えていることなども、日本国内の政治的・軍事的関心を反映している。1920～30年代前半に都市域の地図が多いのは都市化の進展とかがかわるのであろう。

#### 4 結びにかえて

本稿は、新聞附録として刊行された地図252点の概要を紹介した。今後は、地図の内容および地図の受容のされ方について個別に検討していく必要がある。前者に関しては、これらの地図のほとんどが二次的に作成されたものであることから、原資料を捜索することおよび作者がそれらの資料をいかに取捨したかという点が問われねばならない。後者に関しては、受容を検討する前段階として、当該地図が刊行された前後の新聞本紙の内容分析を行うとともに、それらの地図に対する読者の反応を明らかにする必要があるであろう。

また表現内容よりも技法の問題として、円筒図法以外の世界地図が積極的に使われている場合もあることも注意される（図6）。

付記：本調査に当たっては、鳴門教育大学附属図書館の古地図コレクションを利用するとともに、日本新聞博物館に所蔵地図の閲覧などに便宜を図っていただいた。記してお礼申し上げます。また本研究には科研費（課題番号18520608 基盤研究（C）「戦前期新聞・雑誌の附録地図の社会地理学的研究」）を利用している。

## 注

- 1) 大阪毎日新聞は1918年に54万部、1924年に111万部となった(毎日新聞紙百年史刊行委員会、1972、p.371)。東京日日新聞は1924年には69万部となり、1930年に100万部を超えた(毎日新聞紙百年史刊行委員会、1972、p.374)。大阪朝日新聞は1922年に50万部を超え、昭和戦前期にはほぼ90~110万部であった(朝日新聞百年史編集委員会、1995、pp.320~321)。読売新聞は大正期までは10万部程度であったが1933年に50万部に達し1938年に100万部を超えた(読売新聞社、1994、pp.123, 145, 146)。報知新聞は大正末には50万部前後であったが1930年代末には30万部程度に落ちていた(読売新聞社、1994、pp.123, 145, 146)。
- 2) ニュースパーク(2003、p.6)は新聞の附録の意義として、販促機能に加えて、紙幅・印刷技術の制約のために限られた新聞本紙の機能を補完すること、も挙げている。
- 3) この措置は、人々の世界観形成に寄与するものとしての地図、という知識社会学的な観点による。ただしこの点からすれば、地図的ではない(=空間的な配列をとまなわな)単なる地名の列挙であっても、その地名が一定の意味を持っているのであれば、本研究で取り上げるべき地図と同様の意味を持つであろう。双六全体にまで調査範囲を広げることが困難なため現時点では明確に地図的な双六に限定しているが、今後はこうしたものをも対象に含めたいと考えている。
- 4) 以下の各社の経歴は、朝日新聞百年史編集委員会(1995)・毎日新聞紙百年史刊行委員会(1972)・読売新聞社(1994)による。
- 5) このようなシリーズは、配布方法(全読者に全県の地図を配布するのか、あるいは当該県の地図のみを配布するのか)によって、読者に与える空間のイメージが違ってくると思われる。しかしいずれの方法が採られたかは明らかではない。大毎は1910年3月21日に京都府滋賀県・大阪府奈良県・兵庫県の「管内交通明細地図」を附録としている。3地図とも裏面は同一であることから、おそらくそれぞれ当該県でのみ配布されたのであろう。しかし「日本交通分県地図」シリーズを同様に配布したのであれば、各県とも一斉に配布したのではないかとも思われる。
- 6) 併合以前の韓国および「独立」後の満州の地図は「一国」の地図として扱った。

## 文 献

- 朝日新聞百年史編集委員会(1995)『朝日新聞社史 資料編』朝日新聞社  
 岡本光三編(1961)『日本新聞百年史』日本新聞連盟  
 田中耕三(1996)『地名と地図の地理教育』古今書院  
 ニュースパーク(2003)『新聞附録万華鏡—“おまけ”にみる明治・大正・昭和』ニュースパーク  
 毎日新聞紙百年史刊行委員会(1972)『毎日新聞百年史』毎日新聞  
 読売新聞社(1994)『読売新聞百二十年史』読売新聞社



# Maps as addition to newspapers in modern Japan

TATUOKA Yuuzi

(keywords : journalistic cartography, newspaper addition, modern Japan)

Abstract : In the first half of the twentieth century, Japanese newspaper companies occasionally offered maps as addition to the main papers. The main aim of this practice was discrimination for sales promotion, these maps are underestimated, or even forgotten, in spite of their contemporary influence. To investigate these maps, the author made their list as the first step. 252 maps are listed.

This paper introduces general properties of these maps. (1) Osaka Mainichi offered more maps than other companies. (2) Many map were offered in 1920's and 1930's. (3) At this time, larger maps were offered. The size were mainly half of Japanese vellum (80 \* 108 cm). (4) Maps were offered on various occasions : (a) commemoration of the company ; (b) for greeting of new year or summer ; (c) commemoration of railway constructions ; (d) commemoration of new city ; (e) war ; (f) great events (exhibitions, etc.) ; (g) hazards.